



第二回ジェネリック医薬品  
の使用促進に関するセミナー

# パナソニック健保 ジェネリック医薬品 使用促進の取組み

2011年9月13日

パナソニック健康保険組合

**Panasonic**  
ideas for life



1. パナソニック健保の概要
2. 医療費適正化の取り組み
3. ジェネリック薬 使用促進活動
4. 今後の展開

# パナソニック健保の概要

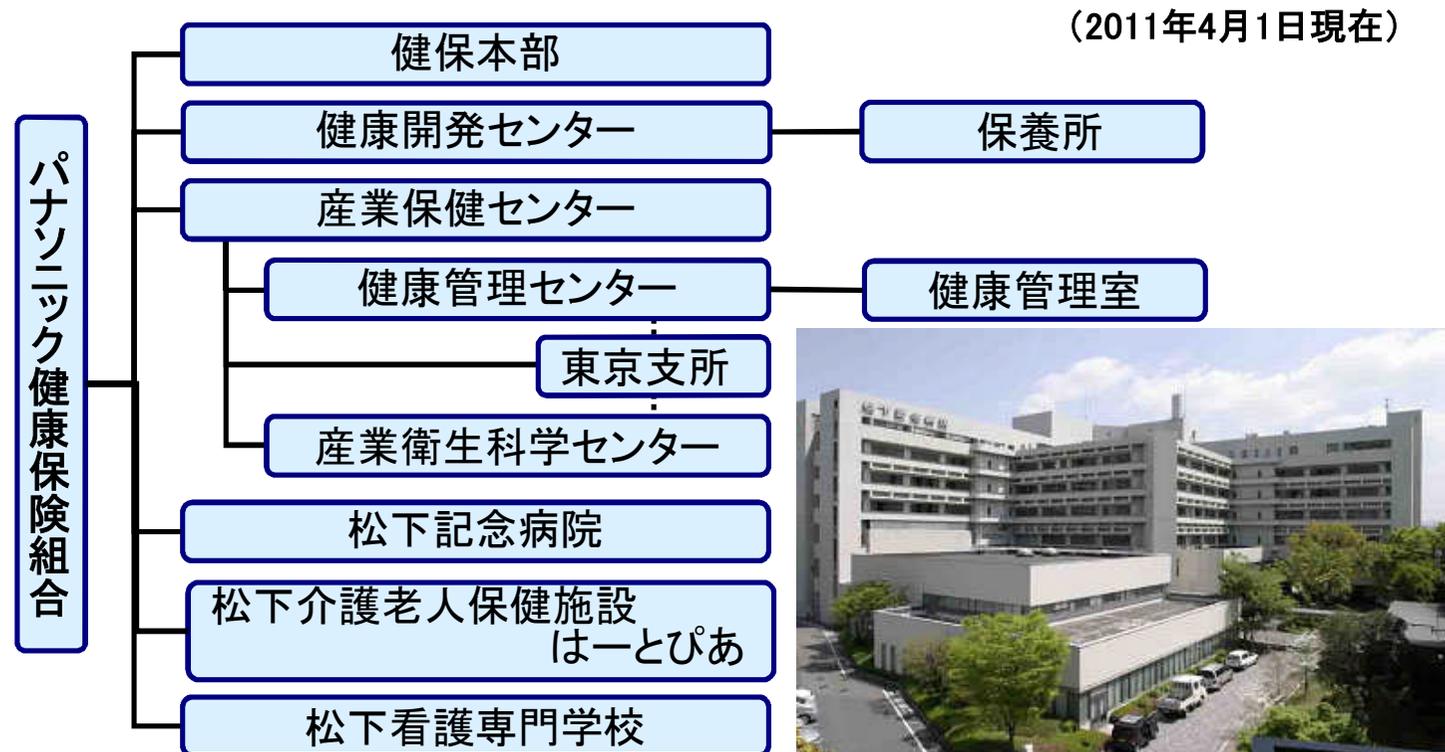
## ● 設立

名称: パナソニック健康保険組合 (所在地: 大阪府守口市)  
設立: 1937年 (昭和12年) 9月1日

## ● 経営理念

- 一. 健康は社会生活のすべての根源にして人生究極の幸せもまた健康にあり  
われらは人みな健康を高め生命に奉仕することを名誉とし使命として邁進する
- 一. われらはこの崇高なる使命に喜びと誇りを感じ生命の深遠性に鑑みて  
おのおの至誠を旨とし和親一致 組織力と衆智を結集して事業目的の達成に努める
- 一. われらは謙虚な心で 医療 看護 介護 技術 接遇 管理 サービスの万全を期し  
すべての人びとに喜ばれ 信頼される存在とならねばならない

## ● 組織



# パナソニック健保の概況

3

## ●概況

※平成23年4月にパナソニック関係会社連合健康保険組合と合併

		被保険者数	被扶養者数	合計
加入者 (平成23年6月末現在)	一般(注1)	152,020人	184,555人	336,575人
	特退(注2)	25,058人	23,199人	48,257人
	計	177,078人	207,754人	384,832人

(注1)平均年齢42.1歳 (男:43.3歳、女性38.2歳)

(注2)老齢厚生年金受給者で在職中当健保に20年(40歳以上10年)以上加入した場合、60~74歳まで加入できる制度

加入事業所数 (平成23年6月末現在)	212ヶ所	パナソニック(株)、パナソニック電工(株) 他
------------------------	-------	-------------------------

平成23年度 予算	予算規模	1,027億円(病院・老健・産業衛生事業等を含む)		
	基本収支	健康保険料	保険給付+納付金等	基本収支差
		770億円	829億円	▲59億円

## 2. 医療費適正化の取り組み

## 健康づくり

### ○ 「健康パナソニック2018」の展開

職域中心の健康づくりに一定の成果をおさめ、今後は母体の創業100周年に向けて、会社・労組・健保の三位一体で全被保険者・被扶養者のまるごと健康づくり(メタボ・メンタル・体力低下・がん・歯科)を行う。

### ○ 特定健診・特定保健指導の強化

特退・任継被保険者及び被扶養者には人間ドックをはじめとした健診コースを設定し、提携先健診機関の拡充を図るなど受診率向上に努める。

## 適用・給付の適正化

### ○ レセプト点検の強化

レセプトの電子化に伴い、縦覧点検をはじめとした多角的な視点からレセプト点検を行う。

### ○ 被扶養者状況調査の実施

被扶養子女の就職に伴う「異動届」の督促とともに、被扶養者の現収入や生計維持関係を書面で調査する。

### ○ 柔整療養費等の適正化を推進

受診者等へ施術内容の照会を行うとともに、広報誌やHP等で健康保険の適用範囲を指導する。

### ○ 負傷原因調査の実施

外傷性疾患のレセプト(1,000点以上を目安)を中心に、労(通)災や加害者による傷病でないかを調査する。

### ○ 「ジェネリック薬 使用促進活動」

### 3. ジェネリック薬 使用促進活動

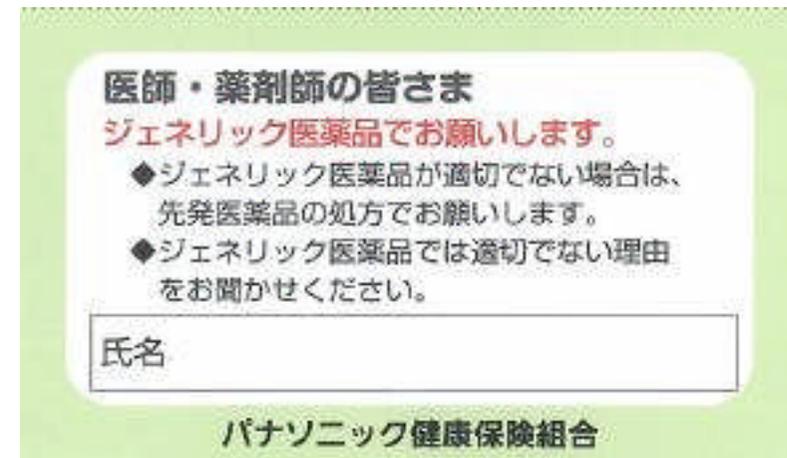
「平成21年度 健康保険組合事業運営指針」に具体施策を明示

具体的活動 1

平成21年7月 ~

広報季刊誌等で周知・徹底

ジェネリック医薬品「お願いカード」の配布



具体的活動 2

平成22年5月 ~

代替可能な先発品を使用されている加入者に対して  
**「ジェネリック医薬品差額通知」** を発送

## 対象

- 全レセプト(病名不問)から抽出
- 毎月、院外処方で一般300円/月・特退100円/月、院内処方で600円/月以上の差額となる場合
- ※ 通知不要とのご連絡があった方は中止

## ツール

- Web(社内eアドレス所有の被保険者) / ペーパー(その他の被保険者)

平成22年 5月分

## ジェネリック医薬品のお知らせ

今お使いの薬をジェネリック医薬品に変えてみませんか？  
医師から処方を受けている薬のうち、ジェネリック医薬品に切り替え可能なものを掲載しています。

あなたとご家族の薬を、ジェネリック医薬品に切り替えた場合、

薬代は、最大で

**900円** (①-②) お安くなります！！

受診者	処方 年 月	医療機関名・薬局名・薬剤名	薬の単価 (薬価) × 数量 × 日数・ 回数	お支払い※1 薬代(円)	ジェネリック医薬品薬代 安い ~ 高い(円)
	平 22 2				
		レニベース錠 5 5mg	76.7 × 1.0 × 30	240	30 ~ 120
		ノルバスク錠 5mg	64.9 × 1.0 × 30	180	90 ~ 150
		テノミン錠 50 50mg	103.3 × 2.0 × 30	630	30 ~ 180

お支払い薬代の合計 ①

1,050円

最もお安い薬代の合計は、②

150円です。

## ご意見 (反応)

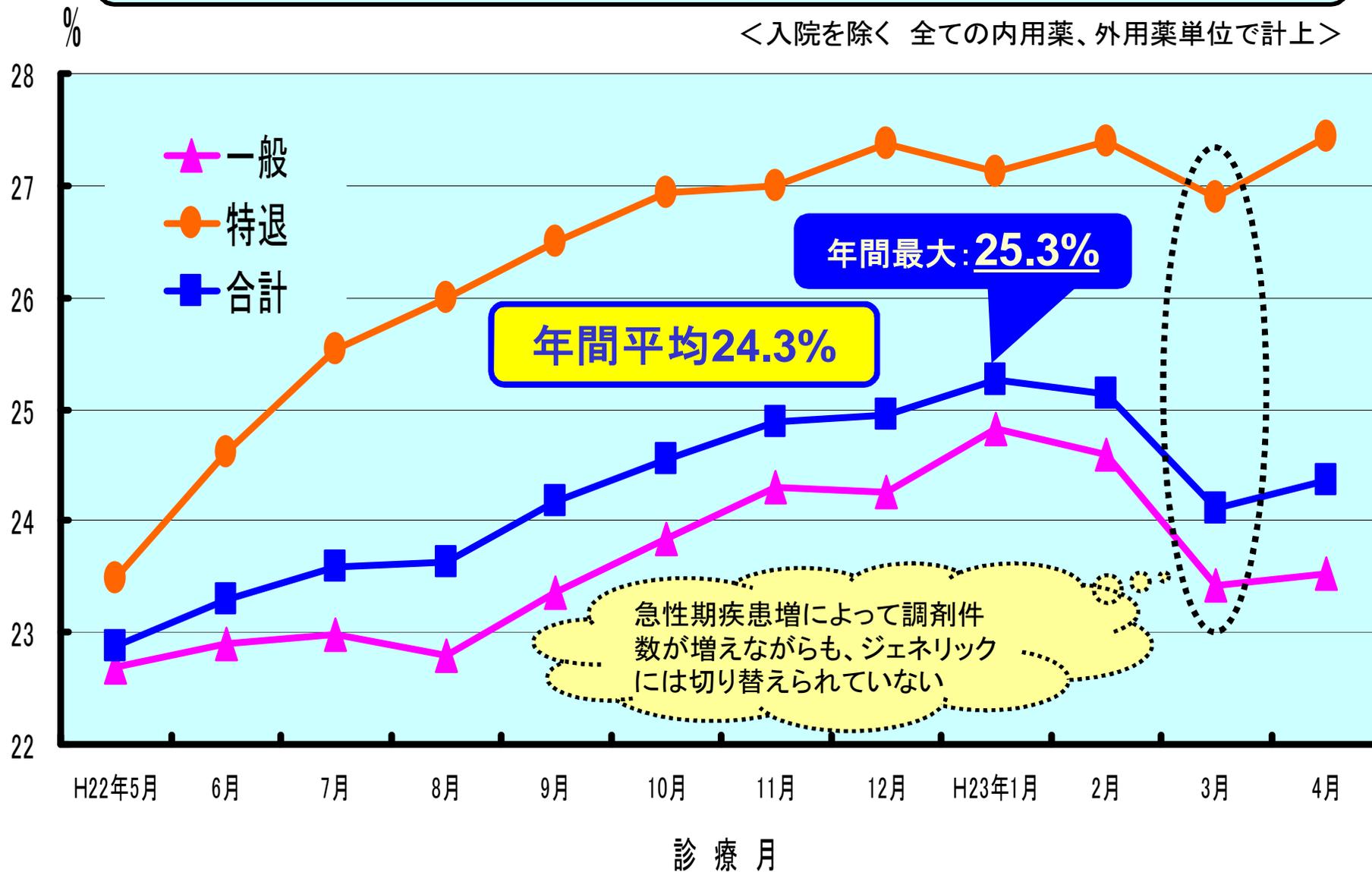
- 「お願いカード」ではできなかったジェネリック切り替えが医師、薬剤師と相談しやすくなった。
- 「ペーパー」でお知らせする被保険者から … 医療費通知と差額通知が1通で送付されて効率的。
- 医師から「ジェネリック切り替えは不可」と言われたので、翌月以降の差額通知は不要。

# 活動成果①:ジェネリック比率(数量ベース)の推移

9

**22.9%**(差額通知の開始時) → 年間最大**25.3%**(H23/1)

<入院を除く 全ての内用薬、外用薬単位で計上>



# 活動成果②:ジェネリック切り替えによる財政効果

10

		金額(千円)	備考
影響(A)	保険給付費	76,942	差額通知後に、元の医薬品と切り替えられた医薬品との保険給付費の差額 (H22年度調剤給付費の1.2%相当)
	納付金等	0	前期納付金への財政影響(55,000千円程度を想定)は翌々年度に計上
経費(B)	啓発活動費	11,004	差額通知作成(イニシャルコスト含む)・郵送費用等
	人件費	1,400	担当者人件費を所要時間相当で換算
財政効果 (A) - (B)		<b>64,538 千円</b>	(H22年5月~H23年3月)

## ヒアリングの内容

### Q:現状のジェネリック使用率は伸びていますか？

- 大手薬局(全国展開の薬局)のジェネリック比率は、22~30%と総じて高い。  
一方、地方薬局では、7~18%で格差が大きい。
- 大手薬局では会社を挙げて使用率30%達成に向け、積極的に推進中。

### Q:ジェネリック利用促進の障害は何ですか？

- 病院 院外処方箋のジェネリック「不可」表示  
⇒ 病院・診療科によって変更不可表示にバラツキがある。
- ジェネリックの種類やメーカーも多く、全ての在庫を持ってない。
- 先発品メーカーの「配合剤 開発」により、ジェネリック使用率低下が懸念される。

### Q:その他

- 特定の病院では、ジェネリックの推奨品リストを公表
- 大手薬局では、疾病別に分かりやすいジェネリック医薬品の対比表を準備
- 「日本ジェネリック医薬品学会」からジェネリック対応薬局ステッカーを掲示

## 4. 今後の展開

関連の皆さまとの一体活動によるジェネリック使用の促進

調剤薬局

病院

健保組合

被保険者  
被扶養者

事業主  
事業場

## 1. データ分析事業との連携による活動

- ・ジェネリック比率 事業場別データによる事業主への啓発
- ・健保加入者が利用する薬局別、病院別データの活用

ゴールド(300品目後発品常時在庫)

## 2. 主要薬局(上位5社)さまとのコラボ推進中

- ・健保加入者が利用する主要調剤薬局へのジェネリック使用促進要請
- ・主要病院へのジェネリック切り替えご提案



## 3. 被保険者・被扶養者への情報発信 強化

- ・「日本ジェネリック医薬品学会」のジェネリック対応薬局の情報提供
- ・ジェネリック通知の改善 他

シルバー(後発品に積極的に対応)





先発薬・後発薬  
使用情報

加入者別  
事業場別  
ジェネリック比率

病院別・薬局別  
ジェネリック比率

ジェネリック  
切り替え効果



個人情報保護に対応



データ分析事業推進室

- ☑ 医薬品使用状況（薬効分類別）
- ☑ 先発品、後発品使用状況（事業所別）
- ☑ 先発品、後発品使用状況（都道府県（個人）別）
- ☑ 医薬品使用状況（全体）
- ☑ 後発品使用状況（病院別、薬局別）
- ☑ 後発品に置き換えられる医薬品の削減シミュレーションと後発医薬品リスト



2011年度運営方針：**新たに前進**

パナソニック健保の活動

1. 健保加入者への広報活動、情報発信の強化

- ・ジェネリック通知内容の改善（年間累計の差額通知作成やジェネリック薬品の明示等を検討）
- ・ジェネリック比率 事業場別データによる事業主への啓発 他

2. ジェネリック対応に積極的な調剤薬局さまとのコラボ推進

- ・データ分析によるジェネリックコンテンツや関連情報を積極的に提供

関連の皆さまへのお願い

1. 薬品メーカーさまへのお願い

- ・ジェネリックの開発加速、品質維持向上、安定供給、品質にかかる情報提供

2. 医療機関さま・調剤薬局さまへのお願い

- ・患者(お客)さまへジェネリックに関する説明や働きかけの強化、在庫対応

3. 厚労省さま・健保連さまへのお願い

- ・院外処方への推進、ジェネリック切り替えに対する更なるインセンティブのご検討
- ・都道府県が行うジェネリック協議会活動へのご支援（先進 都道府県の活動ベンチマーク）